

保育室の外れこそ、保育園に必要な場所

ムダや死角が、一人ひとりの子どもを支えている

象地域設計 さとうみき

第20回

保育園は集団生活。集団の中でこそ学びが、子どもの生きる力になっていく……。設計した保育園にうかがって、園生活のエピソードを聞くと、子どもの発達を専門に勉強し、保育という場で実践し続けている保育士さんはすごいな、いつも思います。0歳児の時から何人も大人たちに、一人の人間として大事にされてきたというベイスが、その子の体と心と考えを育んでいくのです。

その時、設計は、建物は何ができるのか、と考えさせられます。いわゆる「保育室」以外のスペースこそ、今の保育園に必要な場所だろう、と最近思い至っています。

■新築当初との違い

「中二階の活用が課題なの」。築3年の保育園の園長から話がありました。

新築当初は、クラスみんな中二階に上がって公園を眺めたり、もぐって絵本を読んだり、日常の保育で使っていたけれど、その遊びは定着せず、今はまったく活用できていないとのこと。確かに、はしこもはずさ中二階には上がれないように



新築当初 中二階から公園を眺める



ほこらで遊ぶ子どもたち

なっていて、物置になりつつありました。

次の年、「あの中二階ね……」と園長。発達障害の子が、自分のクラスの先生にあいさつした後クラスには入らず、すぐホールの突当たりにある中二階に上がって、ひとしきり好きな遊びをする場に使われている。昨日の続きをするその小一時間があつたから、その後の時間はクラスで過ごし、みんなと関わって遊

■死角が保育で役立つ時

保育室の片隅に押入れ下段のような「ほこら」を造ることがあります。家に見立てたり、数

べるようになってきたのよ、と聞き、再び使われたことに内心ホッと、たとえばどんな障害があつてもその子どもと親を支える、という保育園のスタンスに役立ったかもしれないと思えました。

りする。その続き泣きをみんなの前でやりたい子と、みんなから見えないところで泣きたい子という、というのです。「そうそうそう！」と先生たちは盛り上がりまます。ある保育士さんは「うちの園なんか、エレベーターの前が4・5歳児の部屋から死角になるから、一人で続き泣きして気持ち落ち着けるのにちょっといいのよね」とのこと。

東京都では3階建ての保育園にはエレベーター設置が必須で、乗降口前は1500mm角のスペースが必要です。小さい敷地でも得する3階建てとなるため、小さい園舎ではそのスペース確保に苦労し、つい無駄だと思ってしまうのです。でもその無駄スペースが、保育園生活の一面で子どものために使われていたと知りました。

■収納の位置

保育園では、使う物のすぐそばに収納があるとよい、と思ひ込んでいました。ですが、都営住宅の一階にある保育園で園庭の話で園長から聞いたとき、ドキッとしました。

東西に長い園庭で庭の東端にある砂場で使う道具を、庭の西端の建物脇まで取りに行くこと

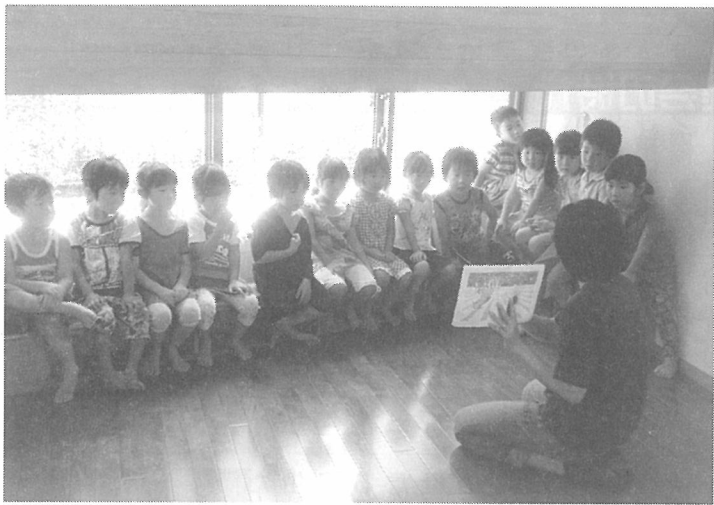
について「0・1歳児が見えないものをイメージし続けながら自分で歩いていくことがどれだけ大事なことになるのか、今の保育士はわかっていないのかしら」と。歩き始めた子どもが目的を持つて園庭を横切る間、保育士はずっとその子を見守ることも保育として大切だと考えてやってきましたけれど、今の保育園にはそういう余裕もない。砂場のそばに砂場道具置場をついに作ってしまうのか、と園長は嘆くように話されました。

■すき間が思わぬ遊び場に

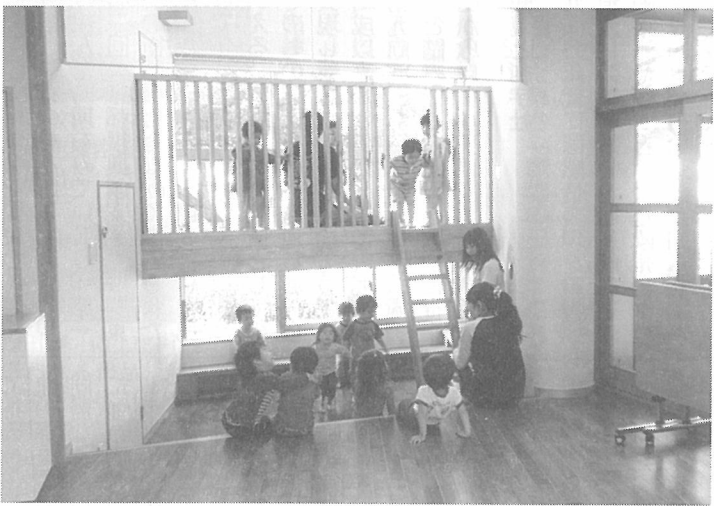
思いも寄らない意外な使用方を聞くことも多々あります。

柱型と壁までのすき間スペースを両手両足で登る遊びが流行っている。勢いあまって頭が天井にぶつかって天井材がへこんでしまい、子どもたちは大いに反省し「赤ちゃんが落ちてくるかもしれない……」と2階にいる乳児の心配をしたそうです。保育士は心で笑い「注意」した、という微笑ましい話でした。

園舎がらみの園生活のエピソードは、時に厳しいこともありますが、とても有意義で、心動かされています。保育を支え保育を高める設計でありたいと思います。



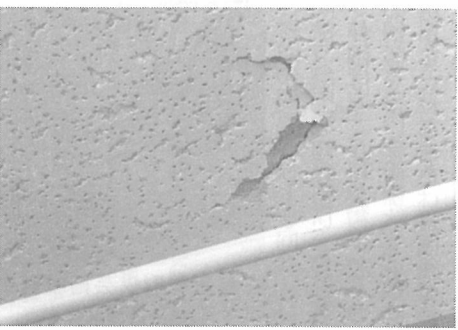
新築当初 中二階で遊ぶ



新築当初 中二階下で絵本を読む



柱型と壁までの間を登って遊ぶ



へこんだ天井材